

株主様向け  
アンケート

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 4975

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト  
内にある検索窓に、いいかぶと  
4文字入れて検索してください。

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い  
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に  
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」  
サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細  
<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させ  
ていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告により、当社ホームページ  
(<http://www.eu.ebara.com/ir/index.html>)に掲  
載いたします。なお、やむを得ない事由により、電  
子公告によることができないときは、日本経済新  
聞に掲載して行うものとします。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

電話お問合せ先・〒135-8722

郵便物送付先 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社  
本店及び全国各支店

証券コード 4975

証券取引所 東京証券取引所市場第一部



荏原ユーザライト株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7  
TEL: 03-3833-0321 FAX: 03-3833-5075  
<http://www.eu.ebara.com/>

証券コード: 4975

環境にやさしいめっき  
これが当社の最大の研究テーマ

Global Technology

株主・投資家のみなさまへ

第48期 中間報告書 2007.4.1 - 2007.9.30



古紙/リブ配合率100%再生紙を使用し、大豆油を利用したソイ・インキを使用しています。

荏原ユーザライト株式会社

## ご挨拶

### 株主・投資家の皆様へ

株主、投資家の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループの今期中間決算は、原油価格や原材料費の高騰を背景として、消費マインドが停滞し、国内外とも厳しい経営環境の中、誠に申し訳ありませんが、減収減益となりました。その要因は、新総合研究所への移転に伴う諸費用の今期への繰り越し及び台湾に引き続き、韓国支店の子会社化による決算期のずれに伴う売上の来期への繰り越しや、タイ及びベトナム子会社の設立に伴う人件費等諸費用の負担増など、販管費の増加によるものであります。しかしながら、私たちは2010年に国内、海外の売上比率を50：50にという今期を初年度とする経営3ヵ年計画の目標達成に向けた第一歩として、涙を吞んでこの状況を受入れて前進したいと思っております。下期には、インド合弁会社への出資、アメリカのコロンビアケミカル社への出資などを行い、新しいマーケットの開拓にも着手する予定です。なお、コロンビアケミカル社との資本提携は垂鉛めっき薬品事業への本格参入と現地生産化を推進するためのものであります。この中間決算で不振であった台湾のパソコン用プリント基板の商況はこのところ非常に活発になってきましたが、台北支店の子会社化により、韓国と同様に後半3ヶ月の売上が今期計上できないのが残念でなりません。しかし、来期はしっかりとした目標達成ができるものと確信しております。なお、配当金につきましては、中間期は30円とし、期末は30円、年間60円を予定しております。

次に、研究開発についてですが、携帯電話、パソコン、デジタル家電に使用されているビルドアップ微細配線板用銅めっき薬品につきましては、諸団体から相次いで表彰を受け、当社の



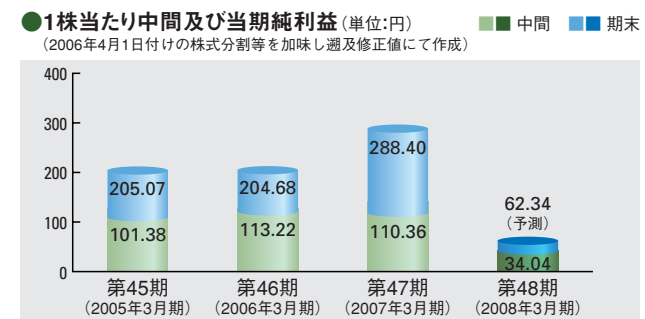
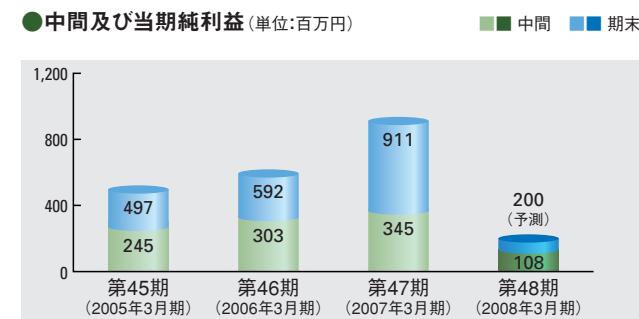
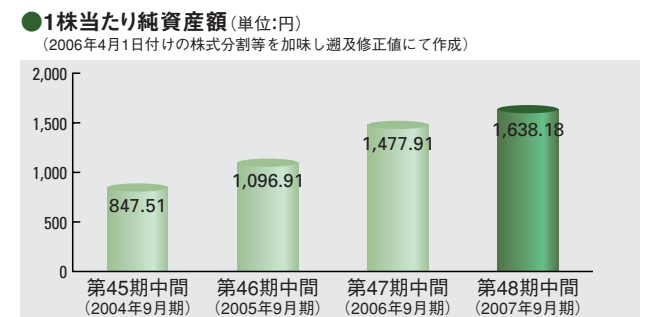
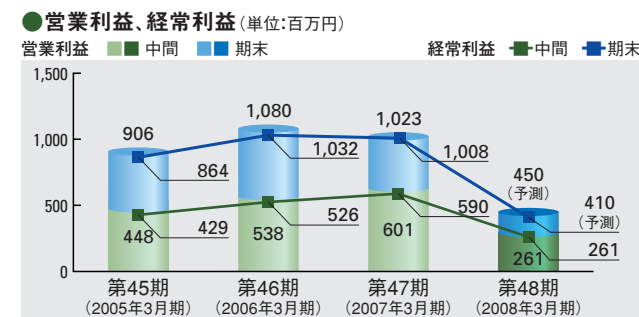
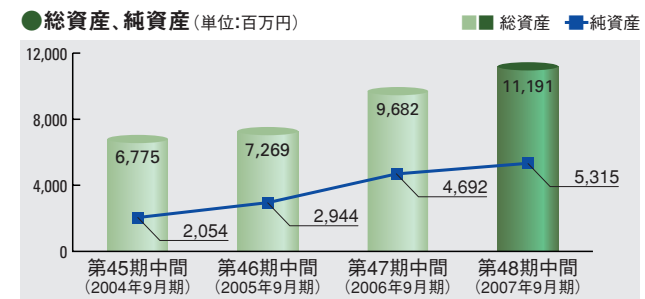
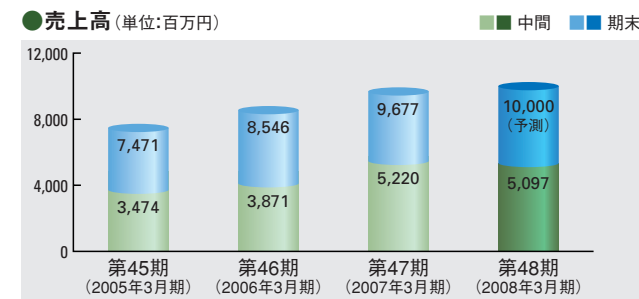
荏原ユーザライト株式会社

代表取締役社長 粕谷 健久

国内外の売上に益々寄与してくれるものと確信しております。また、ドライブプロセスの技術も高い評価を頂いております。当社は、今期このスパッタ装置の売上を計画に織り込んでおりましたが、来期の売上へ変更することにしました。その理由は、従来通り装置を販売するビジネススタイルでは、技術の漏洩という点から販売の継続性に疑問が生じたためであります。従って、装置販売のみを行うビジネスモデルを変更し、世界一流の技術力を有する企業との協力による共同事業として、改めて再構築したいと考えております。結果として今期待していた売上を見送って、来期以降、当社の業績に貢献してくれる方を選択いたしました。

当社は、常に世界の最先端の技術に挑戦し、新分野に新しい企業価値を創造し、新規市場の開拓に邁進いたす覚悟であります。社員一同、少しでも今期及び来期を見据えた社業発展と収益の改善に努めてまいりますので、株主、投資家の皆様には、より一層のご支援ご鞭達を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

## 財務ハイライト(連結)



※2007年3月期には中央研究所土地売却による特別利益が計上されております。

## CONTENTS

ご挨拶 1

財務ハイライト 2

当事業のご紹介 3

トピックス 5

連結財務諸表(要旨) 7

単体財務諸表(要旨) 9

株式の概況/会社概要 10

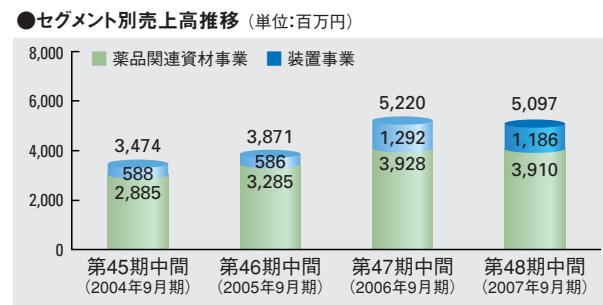
## 当社事業のご紹介

### 事業の内容

当社グループは、めっきを中心とした表面処理に使用される薬品と装置を、自動車、建材、水栓金具、プリント配線板、電子部品、半導体などの様々な分野の業界に提供し、社会の発展に貢献しております。また、当社研究所におきましては環境対応製品の研究開発に積極的に取り組み、地球環境保護にも努めております。

今後、大きな経済発展が期待される中国、台湾、韓国、タイ、ベトナムに100%子会社を、メキシコ、インドに合弁会社を設立し、グローバル企業としての事業展開を行っております。

当社グループにおける事業の種類別セグメントは、【薬品関連資材事業】と【装置事業】に区分しており、中間期におけます売上高推移は右のとおりであります。



### 各事業の概要と中間期の概況についてのご紹介

#### 薬品関連資材事業

当社グループにとって最も重要なマーケットである自動車業界とエレクトロニクス業界における薬品関連資材事業についてご紹介いたします。

フロントグリル、ドアハンドルに代表される自動車用プラスチック部品へのめっき工程は右図のとおりですが、それぞれの工程で当社製の添加剤、光沢剤が使用されています。当社は、わが国における自動車用プラスチック部品へのめっき薬品の約70%のシェアを有しますが、長年にわたり培ったこの技術を、現在、中国をはじめとした新興各国に広く展開しています。

#### ●自動車用プラスチック部品へのめっき工程



エレクトロニクス業界では、携帯電話、デジタルカメラ、パソコンなどの多機能、高性能化に伴い、プリント配線板の回路はますます微細化しています。当社ではこの技術要求に応え、「高密度ビルドアップ配線板用めっき薬品(VFシリーズ)」「多層プリント配線板用めっき薬品(CU-BRITE 21 など)」「微細配線用パラジウム残渣除去剤(ファインライズ)」「微細配線用シード層除去剤(シードロン)」「TAB、COF各種機材対応プロセス(CU-BRITE TH-R II)」などをラインアップし、ご好評をいただいております。

また、コネクターなどの電子部品の分野では鉛フリー化に対応した「ウイスキーフリー純すずめっき」(特許申請中)を開発し、販売促進活動を行っており、国内外で量産ラインがスタートしました。

#### 装置事業

当社グループは、めっき薬品とめっき装置の双方を製造販売する数少ないメーカーです。長年にわたり培っためっき薬品の技術を活かしためっき装置の製造を行い、顧客の皆様方にご満足をいただいております。

近年、エレクトロニクス業界ではプリント配線板の微細配線化が進み、より精度の高いめっき薬品とめっき装置の技術が求められております。しかし、当社はこの要求に対し、従来の湿式技術のみでは十分な対応が困難になると予想しております。このような課題に対し、当社では湿式処理技術と乾式処理技術を融合させることを目的として、2006年8月、「株式会社第四紀韓国」(韓国の乾式表面処理装置メーカー)と業務提携し、市場の開拓を始めました。

また、乾式スパッタリング技術の市場展開も始めました。今までにないユニークな色調が得られ、携帯電話のケースなどへの採用が期待されています。

#### 当中間期の概況

自社製の自動車部品向けめっき薬品、プリント配線板向けめっき薬品、電子部品向けめっき薬品ともに前年同期売上高を上回りました。しかし、仕入製品の売上が前年同期売上高を下回り、薬品関連資材事業の売上高合計は39億10百万円(前年同期比99.6%)となりました。

しかしながら、営業利益は、原材料の高騰、販売費及び一般管理費の増加などにより6億51百万円(前年同期比71.5%)となりました。

#### 当中間期の概況

国内において、プラスチック部品めっき用の装置を1台、亜鉛めっき用の装置を1台、プリント基板用のめっき装置を2台、納入しました。

海外におきましては、当中間期は装置の受注はありませんでしたが、現在、中国、台湾、アセアン諸国における装置営業の体制強化、拡販活動に注力しています。

当中間期の装置事業の売上高は前年同期額を下回り、11億86百万円(前年同期比91.8%)となりましたが、営業損失は前年同期額より減少し、2百万円(前年同期は営業損失6百万円)となりました。



株主優待について

2008年3月期の中間期より、株主優待制度を新設しました。毎年3月末日および9月末日の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上保有の株主様を対象に、

オリジナルカタログよりお選びいただいた2,500円相当の品を贈呈いたします。

フィリング用銅めっきプロセスについて

当社の薬品事業は自動車部品へのめっき薬品の製造販売が中心でしたが、1970年代に電子分野への展開を始めました。その後、新規開発商品を次々に市場に投入、拡販することにより、現在の電子薬品の売上高比率は薬品売上高の約60%となりました。

今回は、その電子分野向け薬品の中でも飛躍的に売上高を伸ばしている「フィリング用銅めっき」についてご紹介します。

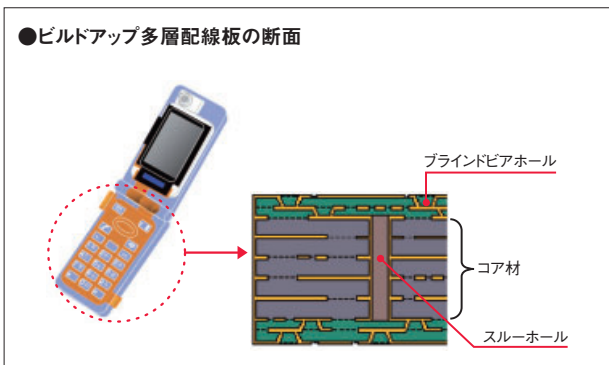
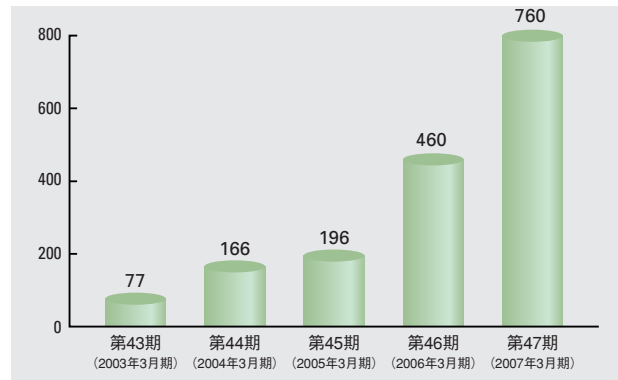
携帯電話、パソコン、デジカメなどに用いられるプリント配線板は、機器の高機能化に伴い、ますます高密度配線が要求されています。この要求を満たすために開発されたプリント配線板が「ビルドアップ多層配線板」です。この配線板の構成は、スルーホールを有するコア材(ガラスエポキシ)に貼り付けた絶縁樹脂層にレーザーでブライ

ンドピアホールを設け、めっきによりコア材と絶縁樹脂層との間の電氣的接続を図ります。

絶縁樹脂層は何層か重ねるため、この工法は「ビルドアップ」とよばれています。

このビルドアップ多層板は、さらなる微細配線化を行うためブラインドピアホールを銅めっきで埋め、この上にビアを重ねるスタックドビアの形成が求められるようになりました。この要望を満たすために開発したのがピアフィリング銅めっきプロセス「CU-BRITE VF」です。おかげさまで売上高も年々増加し、前期は7億60百万円、当中間期はすでに5億に達しており、今後もより一層の増加が見込まれています。

●ピアフィリング用薬品の売上高推移 (単位:百万円)



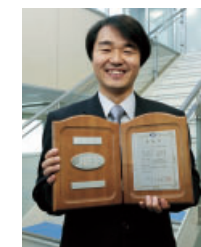
このピアフィリング技術は高い評価を受け、本年5月には社団法人エレクトロニクス実装学会からJIEP賞を受賞しました。

当社ではこのピアフィリングに加え、さらなる高性能化とコストダウンを目的とする、コア材のスルーホールを銅めっきでフィリングする「CU-BRITE TF」の開発を完了しました。このプロセスもその高

度な技術が評価され、社団法人日本電子回路工業会からJPCA賞を受賞しました。

「CU-BRITE VF」と「CU-BRITE TF」、2つのフィリング用銅めっきプロセスのシナジー効果により、国内外の市場占有率を高めていきたいと考えます。

受賞者の声



JIEP賞  
受賞者代表 萩原 秀樹

■受賞内容

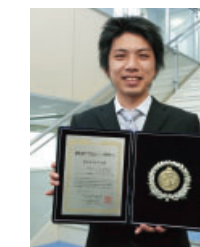
今回、受賞したテーマは「ピアフィリングめっき技術」と題した内容です。

本技術を用いることによって、電子機器の基板を高密度化(多層化しても、薄くて軽い)させることが可能となります。その結果、高性能にもかかわらず小さく、軽い機器の製造が可能になります。

もちろん、本技術はめっきを使用して行うために、従来の真空技術に比べ安く製造することも可能としていることは言うまでもありません。

■受賞者の感想

受賞者を代表して、感想を述べさせていただくならば、「光栄です」の一言につきます。この受賞を励みに、これからもより一層技術に磨きをかけ、当社の「ピアフィリングめっき技術」を世界中に広げていきたいと思います。



JPCA賞  
受賞者 石塚 博士

■受賞内容

本テーマ「硫酸銅スルーホールフィリングめっき技術」はプリント配線板コア層の製造において従来のコンフォーマルめっきとインク剤充填方式に取って代わる新技術です。本技術を用いることにより、大幅な製造工程の短縮による生産性の向上やコスト削減が可能になります。また、従来法に比べて導電性、放熱性の向上が期待できるため、高密度パッケージ基板だけでなく、より導電性を重視する特殊素材、放熱性を要するフレキシブル基板などへの応用も考えられます。現在は国内外で問い合わせやテスト依頼があり、今後正式製品化を進めていく予定です。

■受賞者の感想

本技術のベースとなっているのはピアフィリングめっき技術になります。当社のピアフィリング技術は世界でもトップクラスであるとユーザーからも評価されており、この技術においてこれまで培ったノウハウを生かして、より発展させたものがスルーホールフィリング技術です。今回いただいたJPCA賞は、本技術の将来性を評価していただいた結果だと受け止め、今後さらに改良を重ねてまいります。

## 連結財務諸表(要旨)

### 連結貸借対照表

科目	当中間期 2007年9月30日現在	前期末 2007年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	6,852,643	5,912,237
現金及び預金	1,805,818	1,648,351
受取手形及び売掛金	3,467,834	2,984,722
たな卸資産	1,273,525	963,162
その他	305,465	316,001
固定資産	4,339,103	3,606,245
有形固定資産	3,079,171	2,855,562
無形固定資産	23,373	23,820
*1 投資その他の資産	1,236,558	726,862
資産合計	11,191,747	9,518,483

\*1 投資その他の資産の増加額は、主に取引関係にある会社との連携強化を目的として相互に株式を取得したことによるものであります。

\*2 流動負債の増加額は、主に支払手形及び買掛金が8億86百万円増加したことによるものであります。

\*3 固定負債の増加額は、主に長期借入金が増加したことによるものであります。

(単位：千円)

科目	当中間期 2007年9月30日現在	前期末 2007年3月31日現在
【負債の部】		
*2 流動負債	4,325,867	3,412,710
*3 固定負債	1,550,332	829,874
負債合計	5,876,199	4,242,585
【純資産の部】		
株主資本	5,265,055	5,216,493
資本金	910,562	900,812
資本剰余金	863,211	853,461
利益剰余金	3,491,873	3,462,811
自己株式	△592	△592
評価・換算差額等	7,265	12,578
その他有価証券評価差額金	△71,971	△6,565
繰延ヘッジ損益	△133	—
為替換算調整勘定	79,370	19,144
少数株主持分	43,227	46,825
純資産合計	5,315,547	5,275,897
負債純資産合計	11,191,747	9,518,483

### 連結損益計算書

科目	当中間期 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前中間期 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	前期末 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
売上高	5,097,438	5,220,831	9,677,490
売上総利益	2,278,278	2,284,503	4,496,151
販売費及び一般管理費	2,016,343	1,683,259	3,472,452
営業利益	261,935	601,244	1,023,698
経常利益	261,322	590,681	1,008,779
税金等調整前中間(当期)純利益	268,593	601,020	1,545,902
中間(当期)純利益	108,871	345,998	911,319

(単位：千円)

### 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前中間期 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	前期末 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	18,659	131,834	548,932
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 812,135	△ 303,174	△ 971,291
財務活動による キャッシュ・フロー	910,651	△ 194,550	△ 279,348
現金及び現金同等物 に係る換算差額	39,902	△ 7,653	5,961
現金及び現金同等物 の増加額	157,078	△ 373,544	△ 695,746
現金及び現金同等物 の期首残高	1,648,351	2,344,097	2,344,097
現金及び現金同等物 の中間期末(期末)残高	1,805,429	1,970,553	1,648,351

(単位：千円)

### 連結株主資本等変動計算書

(自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計			
2007年3月31日残高	900,812	853,461	3,462,811	△ 592	5,216,493	12,578	46,825	5,275,897
当中間連結会計期間中の変動額								
新株の発行	9,750	9,750			19,500			19,500
剰余金の配当			△ 79,810		△ 79,810			△ 79,810
中間純利益			108,871		108,871			108,871
株主資本以外の項目の当中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 5,312	△ 3,598	△ 8,911
当中間連結会計期間中の変動額合計	9,750	9,750	29,061	—	48,561	△ 5,312	△ 3,598	39,650
2007年9月30日残高	910,562	863,211	3,491,873	△ 592	5,265,055	7,265	43,227	5,315,547

## 単体財務諸表(要旨)

### 単体貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間期 2007年9月30日現在	前期末 2007年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	6,124,592	5,144,165
固定資産	4,912,720	4,220,735
有形固定資産	2,876,383	2,796,100
無形固定資産	5,336	5,847
投資その他の資産	2,031,000	1,418,787
資産合計	11,037,312	9,364,900
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	4,238,426	3,341,433
固定負債	1,548,852	829,874
負債合計	5,787,278	4,171,307
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	5,322,139	5,200,158
評価・換算差額等	△ 72,105	△ 6,565
純資産合計	5,250,033	5,193,592
負債純資産合計	11,037,312	9,364,900

### 単体損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間期 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前中間期 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	前期末 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
売上高	5,009,215	5,140,634	9,468,537
売上総利益	2,205,458	2,205,164	4,319,044
販売費及び一般管理費	1,818,174	1,610,922	3,276,812
営業利益	387,283	594,241	1,042,232
経常利益	363,183	585,037	1,007,182
税金等調整前中間(当期)純利益	371,654	595,376	1,544,306
中間(当期)純利益	182,290	338,883	910,566

### 単体株主資本等変動計算書

(自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2007年3月31日残高	900,812	853,461	3,446,476	△ 592	5,200,158	△ 6,565	5,193,592
中間会計期間中の変動額							
新株の発行	9,750	9,750			19,500		19,500
剰余金の配当			△ 79,810		△ 79,810		△ 79,810
中間純利益			182,290		182,290		182,290
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△ 65,539	△ 65,539
中間会計期間中の変動額合計	9,750	9,750	102,482	—	121,980	△ 65,539	56,441
2007年9月30日残高	910,562	863,211	3,548,956	△ 592	5,322,139	△ 72,105	5,250,033

## 株式の概況/会社概要 (2007年9月30日現在)

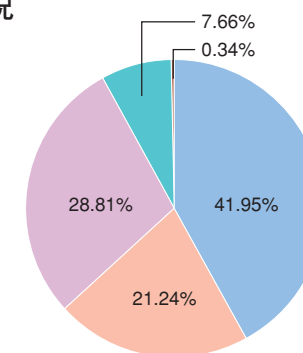
### 株式の状況

発行済株式総数 ..... 3,218,500株

株主数 ..... 2,444名

### 所有者別株式分布状況

国内法人	41.95%
外国法人等	21.24%
個人・その他	28.81%
金融機関	7.66%
証券会社	0.34%



※2007年3月31日現在の株主数が一部上場の基準値を満たさず、猶予期間入りとなりましたが、同年9月30日現在の株主数が増加し、これが解除されました。

### 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジェイピーアールティ アイエスジー エフイー-エイシー	302,150	9.38
粕谷 佳允	152,500	4.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	121,000	3.75
エフビーエフ 2000, エル, ビー,	113,500	3.52
日本高純度化学株式会社	110,000	3.41
荏原実業株式会社	100,000	3.10
清水鍍研材株式会社	80,000	2.48
栄電子工業株式会社	80,000	2.48
株式会社ユニゾーン	80,000	2.48
神谷理研株式会社	80,000	2.48

(注) 1. 当社は自己株式を100株所有しております。  
2. 出資比率は、小数点以下第3位を切り捨てて表示しております。

- 商号 荏原ユーザライト株式会社
- 本社所在地 東京都台東区台東4丁目19番9号 山口ビル7
- 設立 1968年(昭和43年)4月1日
- 資本金 910,562,500円
- 事業所
 

【国内】	【海外】
大阪支店	九州営業所
名古屋支店	総合研究所
高崎支店	新潟工場
浜松営業所	
	ドイツ事務所
- 【連結子会社】
  - ・ 荏原ユーザライト(上海)貿易有限公司
  - ・ 広州分公司/蘇州分公司
  - ・ 台湾荏原ユーザライト股份有限公司
  - ・ EBARA-UDYLITE(KOREA)CO.,LTD
  - ・ EBARA-UDYLITE(ASIA-PACIFIC)CO.,LTD
  - ・ EBARA-UDYLITE AMERICA,S.A.DE C.V.
  - ・ EBARA-UDYLITE VIETNAM CO.,LTD

### 役員一覧

代表取締役社長	粕谷 佳允
専務取締役	大野 寛二
専務執行役員	
専務取締役	大木 繁司
専務執行役員	
取締役常務執行役員	上谷 正明
取締役常務執行役員	遠藤 豊春
取締役常務執行役員	小澤 恵二
取締役執行役員	中澤 隆司
監査役(常勤)	古賀 孝昭
監査役(社外)	伴 峰夫
監査役(社外)	岸 富也
監査役(社外)	高中 正彦
執行役員	君塚 亮一
執行役員	早川 修司
執行役員	原 力

● 従業員数 連結 264名 単体 249名